

## 下水道のはたらき

まつお めいな

筑後市立 二川小学校

わたしは、水きららを見学して、次のようなことを思いました。

まず、下水処理場の中にたくさんの機械があることにおどろきました。その中の機械には、ポンプやベルトのうしゆく機などというものもありました。ポンプは名前もしらなかつたので、「そういうものもあるんだな。」と思いました。

次に、水は使って、下水道へ進んで、浄化センターできれいにした水を川へ流して、じょう発して、雲になり、雨となってダムへ行き、その水は浄水場できれいにされて、またわたしたちへと流れつく、長い道のりだけど、これがくり返されていく、水は「資源」なのだということがわかりました。このことは、初めて知ったので、とてもおどろき、あらためて水の大切さを感じました。

3つ目は、活性汚泥がいるから水はきれいになる、ということですね。活性汚泥は微生物の集まりで、反応タンクにいます。反応タンクは、下水をきれいにするために、1番必要な場所だと教えてもらいました。このことは本当にびっくりしました。わたしはさいしょ、機械でよごれをおとすと思っていました。でも、ちがうと分かり、とても勉強になりました。他にも、活性汚泥はよごれを食べた後、合体し、しずんでいくこともしり、じつさいにボトルの中でそうなっているのを見ました。そのボトルを見て、「すごいな。」と感じました。

4つ目に、汚泥もさい利用されることについてです。汚泥は、よご

れたどろのことです。なので、初めて聞いたときは、「えっ、よごれたどろも、さい利用されるの。」とおどろきました。そんな汚泥は、どのようにさい利用されるのかというと、肥料やセメントになっているとしたりしました。こんなに身近なものに生まれかわっているとしり、「他にも、どんなものにさい利用されているんだろう。」と思いました。

さいごに、海や川の大切さについてです。「水がなくなってしまうと、川や海に住む魚たちだけじゃなく、わたしたち人間も1日も生活できません。」という言葉に、「そうだよな。やっぱりきれいな水って大切だよな。」と感じました。

このように、水きららへ行き、水の大切さや、下水道の役わり、しよりのしくみ、海や川がきれいであることの大事さや、そのために自分たちもできることなど、たくさんのがわかり、いろんなかんじようが、わきでてきました。たくさんのかんじようをしたので、これから、きれいにしてくれる人、活性汚泥にもかんしやしなから、生活していきたいです。